

日時：7月26日（火）13：30～14：00

出席者：岡田恵子局長、杉田和暁総務課長

大倉多美子、橋本紀子、前田佳子、早乙女智子、柴田真佐子

最初に、名刺交換をしながら各自自己紹介。

2016年に岡田局長が男女共同参画局の課長もしていたことを確認。

次に、国際婦人年連絡会の歴史と活動を、連絡会リーフ2020の和文版と英語版、2020NGO日本女性大会の冊子を手渡ししながら、簡単に説明する。特に男女共同参画局の設置など、先輩たちは尽力した等を強調。

また、活動の一つとしてCSWのサイドイベントを3NGOで開催するようになった経緯や連絡会がCSW67の担当団体である事などについて、アピール（簡単なメモを手渡す）。

ここで、林前局長の築いた路線を継承し、強力で押し進めてほしい旨、発言し、これまで、連絡会は共同参画局のスタッフと、その時々に関題になっているテーマについての意見交換をしてきたが、それを、今後も継続してもらいたいと要望。コロナ禍なので、オンラインということもあるかもしれないが、加盟団体からの参加も受け入れる意見交換の場をもつことも検討してくれることになった。こちらは、コロナが比較的収まるであろう10月ごろを希望。

また、現在、意見交換の希望の出ているテーマについて、説明。一つ目が避妊や人工妊娠中絶等を含む「セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ SRHR」に関する政策に関するもので、早急な改善が望まれる。特に、2021年末に認可申請され、今年認可になるであろうと言われている「経口中絶薬」の認可や運用に関して、世界の状況も鑑みて女性のニーズに沿った制度になるようにバックアップしていただきたい等と発言。二つ目が2022年の日本のジェンダーギャップ指数を116位にとどめている経済・労働分野の男女格差を如何に是正するかという課題がある。そういう意味からいえば、男女共同参画局も尽力した「女性版骨太の方針2022」の1番目に女性の経済的自立が掲げられ、ここで男女賃金格差への対応として、非正規雇用労働者の賃金の引上げ（同一労働同一賃金の徹底）とともに、社内格差（垂直分離）と職種間格差（水平分離）についても取り上げていること、しかも、それぞれ、データにもとづいて説得的に提言されていることに、今後の前進を期待との発言。

これらを受けて、岡田局長は男女共同参画局単独で物事を進めるのは難しいため、何かの課題を解決するためには政治動向との関係で、チャンスを逃さずに、それに乗るようにしなければいけないと言い、杉田課長は、林前局長の下で、大変だったが、今回「女性版骨太の方針」作りに関わり、データの重要性について実感していると述べた。最後に、女性差別撤廃条約選択議定書の早期批准についても、尽力してもらいたいと発言。

記念写真を撮って、終了となる。

以上